

## ■今後の行政改革の取り組み及びこれまでの行政改革について

## 【清須市財政中期試算（平成24年度当初予算ベース）H24.3公表】

- 歳入面：税収は平成20年度のピーク時（約122億）を大きく下回る。  
 ○歳出面：社会保障関係経費の増加、インフラ（下水道等）整備、公共施設の統廃合など  
 将来的な課題が山積  
 ⇒収支の乖離（財源不足）が毎年度生じることとなり、財源対策が必要

※合併特例支援の終焉（平成28年度から段階的に縮小、平成32年度には完全に終了）

「第2次行政改革大綱・集中改革プラン」による不断の行政改革の推進が必要

## 【歳入】 (単位 百万円)

| 科目     | 年度 | 23年度<br>(最終予算) | 24年度<br>(当初予算) | 25年度   | 26年度   | 27年度   |
|--------|----|----------------|----------------|--------|--------|--------|
| 市税     |    | 11,139         | 10,931         | 11,114 | 11,193 | 10,990 |
|        |    |                |                |        |        |        |
| 地方交付税  |    | 1,947          | 1,350          | 1,350  | 1,350  | 1,340  |
| 普通交付税  |    | 1,897          | 1,300          | 1,300  | 1,300  | 1,290  |
| 特別交付税  |    | 50             | 50             | 50     | 50     | 50     |
|        |    |                |                |        |        |        |
| 市債（※1） |    | 1,563          | 1,545          | 1,007  | 415    | 108    |
| ①歳入合計  |    | 22,166         | 20,780         | 20,668 | 19,896 | 19,302 |

## 【歳出】 (単位 百万円)

| 科目    | 年度 | 23年度<br>(最終予算) | 24年度<br>(当初予算) | 25年度   | 26年度   | 27年度   |
|-------|----|----------------|----------------|--------|--------|--------|
| 人件費   |    | 3,648          | 3,571          | 3,562  | 3,530  | 3,535  |
| 物件費   |    | 5,009          | 5,032          | 4,804  | 4,784  | 4,785  |
| 維持補修費 |    | 54             | 72             | 72     | 72     | 72     |
| 扶助費   |    | 3,851          | 3,868          | 4,084  | 4,324  | 4,593  |
|       |    |                |                |        |        |        |
| ②歳出合計 |    | 22,166         | 20,780         | 21,721 | 20,938 | 20,655 |

財源過不足額（※2）  
 (①-②)

|  |  |  |        |        |        |
|--|--|--|--------|--------|--------|
|  |  |  | ▲1,053 | ▲1,042 | ▲1,353 |
|--|--|--|--------|--------|--------|

※1 平成25年度以降の市債には、財源対策を目的とした特例的な起債（臨時財政対策債・減税補てん債など）を含まない。

※2 財源不足は、臨時財政対策債の発行、基金のさらなる取り崩しの他、行政改革による歳出削減努力などを行うことで解消を図る。

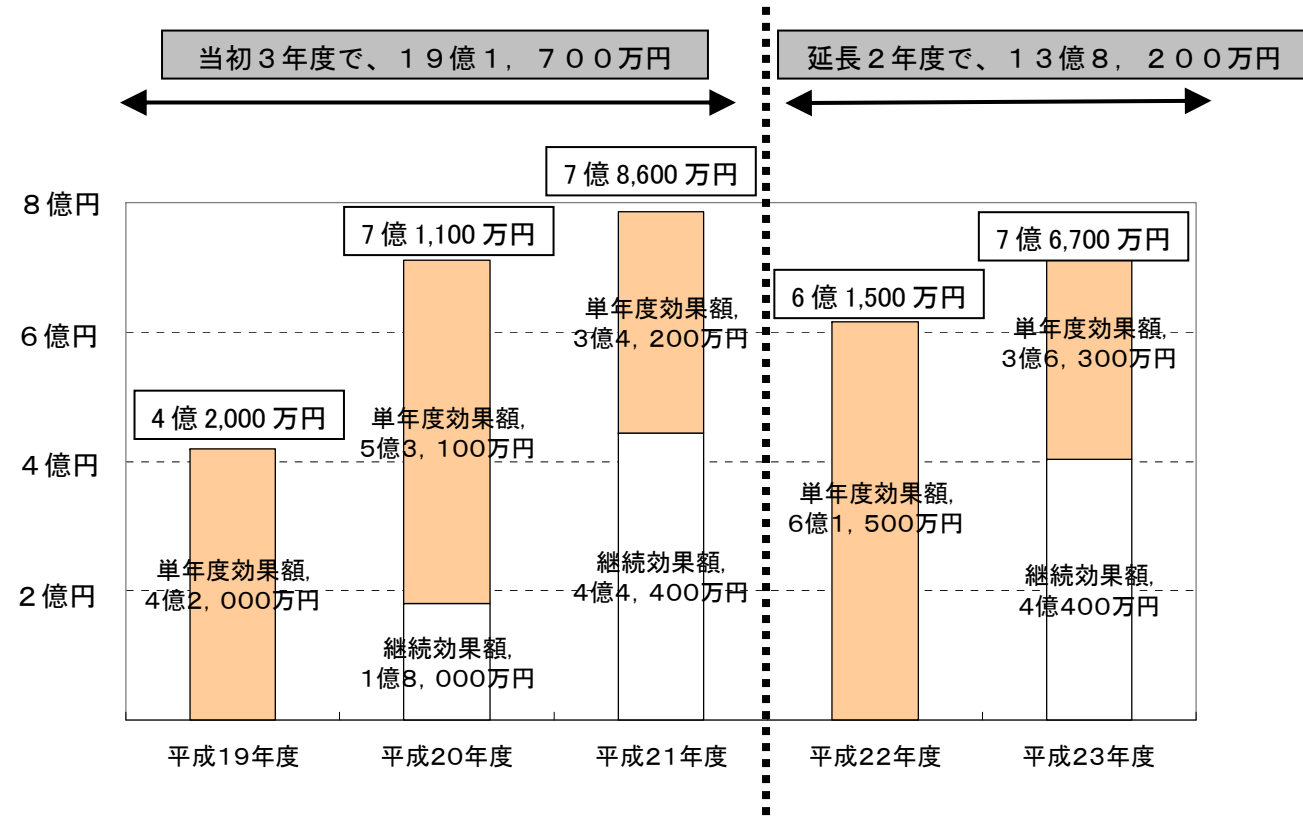
## 【行政改革大綱の重点項目における具体的な取り組み】

| 重点項目         | 具体的な取組内容                           |   |
|--------------|------------------------------------|---|
| 1 行政体制の再構築   | ①定員管理の適正化                          | 定員適正化計画に基づく計画的な職員定数の削減<br>平成24年4月1日の職員数 461人<br>目標値（466人）から5人の前倒し                           |
|              | ②総人件費の抑制                           | 業務量現況調査の実施による適正職員数の把握<br>平成24年度職員数（前年度比）<br>正規職員▲6人、人材派遣職員▲2人、<br>嘱託員▲1人、臨時職員▲29人           |
|              | ③人材育成、<br>人事評価制度の推進                | 人事評価結果に基づく処遇への反映<br>平成24年度⇒課長級以上、<br>平成25年度⇒副主幹以上、平成26年度⇒全職員                                |
|              | ④電子自治体の推進                          | 市情報システム最適化計画に基づく、内部情報系システム機器更新及び基幹システムの再構築  |
| 2 事務事業の再構築   | ①事務事業の見直し                          | 目的の達成度合、行政の役割、サービスの内容や手法などの面からの見直し<br>【平成25年度見直し検討事業】<br>○生ごみ処理機等購入補助金<br>○浄化槽清掃費補助金 ○老人福祉金 |
|              | ②受益と負担の適正化                         | 適正な負担水準の設定に向けた検討  |
|              | ③補助金のあり方                           | 公共的団体の実態等に即した補助金のあり方の検討   |
| 3 公共施設の再構築   | ①公共施設の適正な配置                        | 庁舎等の再編にあたる内部検討組織の立ち上げ<br>平成24年5月 庁舎等再編検討会議の設置   |
|              | ②計画的な保全管理                          | 機能劣化に備えた修繕・補修・補強工事の実施<br>平成24年度 星の宮小学校の外壁補修<br>朝日保育園の耐震化の実施                                 |
|              | ③維持管理手法の見直し                        | 指定管理者制度など、民間活力の活用<br>「清須市図書館」、「はるひ美術館」及び「はるひ夢の森公園」を一体とした指定管理の導入                             |
| 4 財政システムの再構築 | ①歳入確保                              | 有料広告掲載など、新たな財源確保<br>官民協働による「清須市暮らしの便利帳」の発行<br>※広告料のみで冊子を作成・配布                               |
|              | ②入札・契約の適正化                         | 電子入札制度の推進   |
|              | ③未利用、低利用資産の有効活用                    | 遊休資産の活用及び売却等の推進<br>平成24年度11月現在 公告中の物件2件   |
| 5 協働の推進      | アダプト制度の推進<br>アダプト活動団体 24団体（前年度比+4） |   |

【これまでの行政改革について】

第1次行政改革大綱及び集中改革プラン（平成19～23年度）の取り組みにより、歳出の抑制や歳入の確保を図り、取組を行わなかった場合と比較すると、以下の効果額を生み出すことができた。

1 年度ごとの行政効果額



○取組により、次年度以降もその効果が継続する場合（職員定数の削減、補助金の廃止等）は継続効果額として計上。

○効果額は、平成19～21年度分（第1次集中改革プランの当初3年度分）と平成22・23年度分（第1次集中改革プランの期間延長2年度分）に区分して計上。

○各年度の行革効果額の算式は以下のとおりです。

<算式>

$$\text{取組前の当該事業決算額} - \text{取組後の当該事業決算額} = \text{行革効果額}$$

注) 行革効果額がマイナスとなる場合（歳入の増）は、プラスに読み替え。

2 重点項目別の行革効果額

【当初3年度分（平成19～21年度）】

| 重点項目       | 行革効果額<br>(3年度分の合計額) | 主な内容  |
|------------|---------------------|---|
| 行政体制の再構築   | 4億1,200万円           | ○職員定数等の削減（一般会計のみ）<br>3億6,700万円<br>○会計管理者制度の導入（収入役の廃止）<br>4,400万円  |
| 事務事業の再構築   | 3億300万円             | ○市税前納報奨金制度の廃止<br>1億9,900万円<br>○金銭的給付事業の見直し<br>7,800万円<br>○自己負担のあり方見直し<br>1,800万円                        |
| 公共施設の再構築   | 1億2,300万円           | ○心身障害者通所作業所の統合<br>6,000万円<br>○指定管理者制度の拡充（カルチバ新川）<br>3,200万円<br>○スポーツ（プール）施設のあり方（にしび温水プールの休止）<br>2,300万円 |
| 財政システムの再構築 | 10億7,900万円          | ○超過課税の実施<br>4億4,900万円<br>○枠配分予算編成の導入<br>4億8,000万円   |
| 合計         | 19億1,700万円          |   |

【延長2年度分（平成22・23年度）】

| 重点項目       | 行革効果額<br>(2年度分の合計額) | 主な内容  |
|------------|---------------------|---|
| 行政体制の再構築   | 5億1,700万円           | ○職員定数等の削減（一般会計のみ）<br>5億1,700万円  |
| 事務事業の再構築   | 4億2,900万円           | ○金銭的給付事業の見直し<br>1,100万円<br>○一部事務組合負担割合等の見直し<br>2億9,500万円<br>○ごみ収集処理経費の見直し<br>7,600万円<br>○し尿処理中継陸送料の見直し<br>4,700万円 |
| 公共施設の再構築   | 600万円               | ○公共施設の統廃合に伴う廃止（下河原保育園・にしび温水プール・寿荘・古城荘）<br>※施設管理費の削減   |
| 財政システムの再構築 | 4億3,000万円           | ○遊休資産の売却<br>2億200万円<br>○枠配分予算編成の導入<br>2億2,800万円   |
| 合計         | 13億8,200万円          |   |